

# 四半期報告書

(第68期第3四半期)

自 平成27年10月1日

至 平成27年12月31日



東京都中央区日本橋堀留町2丁目8番5号

(E01758)

第68期（自平成27年10月1日 至平成27年12月31日）

# 四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用して、平成28年2月12日に提出したデータに目次および頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書および上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。



# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移…………… 1
- 2 事業の内容…………… 1

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク…………… 2
- 2 経営上の重要な契約等…………… 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析…………… 2

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等…………… 5
- (2) 新株予約権等の状況…………… 5
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等…………… 5
- (4) ライツプランの内容…………… 5
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移…………… 5
- (6) 大株主の状況…………… 5
- (7) 議決権の状況…………… 6

#### 2 役員の状況…………… 6

### 第4 経理の状況…………… 7

#### 1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表…………… 8
- (2) 四半期連結損益及び包括利益計算書…………… 10

#### 2 その他…………… 14

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報…………… 15

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第68期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）
【会社名】	デンヨー株式会社
【英訳名】	Denyo Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古賀 繁
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋堀留町2丁目8番5号
【電話番号】	03（6861）1111
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員管理部門長 白鳥 昌一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋堀留町2丁目8番5号
【電話番号】	03（6861）1111
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員管理部門長 白鳥 昌一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第67期 第3四半期連結 累計期間	第68期 第3四半期連結 累計期間	第67期
会計期間		自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高	(百万円)	37,629	36,633	52,267
経常利益	(百万円)	3,702	3,034	5,757
親会社株主に帰属する四半期（当期） 純利益	(百万円)	2,492	2,093	3,857
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	3,211	1,666	5,851
純資産額	(百万円)	46,835	50,116	49,195
総資産額	(百万円)	64,795	66,941	67,324
1株当たり四半期（当期）純利益金額	(円)	115.82	97.95	179.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益金額	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	69.7	72.1	70.3

回次		第67期 第3四半期連結 会計期間	第68期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自平成26年10月1日 至平成26年12月31日	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	50.82	31.74

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期（当期）純利益」を「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」としております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。  
なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

#### （1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続きましたが、個人消費の回復は弱く、横這い状況で推移いたしました。一方、世界経済は、中国の景気減速や中東地域の地政学的リスクの高まりなどが見受けられましたが、総じて底堅く推移いたしました。

当社グループを取り巻く事業環境は、国内においては、老朽化対策工事や首都圏再開発工事など建設需要は底堅く推移しているものの、公共投資は減少傾向にあり、また、先行き不透明感から民間設備投資にも一部慎重姿勢が見られました。一方、海外においては、アジア市場および中近東市場などで需要が堅調に推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、積極的に新製品を開発し市場に投入すると共に海外市場での拡販にも注力してまいりましたが、売上高は366億33百万円（前年同期比2.6%減）となりました。利益面におきましては、人件費や減価償却費等の増加もあり、営業利益は26億96百万円（同21.2%減）、経常利益は30億34百万円（同18.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は20億93百万円（同16.0%減）となりました。

セグメント別概況は次のとおりです。

#### （日 本）

日本は、海外向けでアジア市場や中近東市場向けなど全般的に発電機の出荷が増加しましたが、国内向けは、防災設備用の発電機の出荷が建設工事の遅れにより先延ばしになるなどの影響も見られ、売上高は270億53百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益は15億46百万円（同17.7%減）となりました。

#### （アメリカ）

アメリカは、レンタル市場向けに発電機の出荷が減少したことから、売上高は54億12百万円（同20.3%減）、営業利益は6億88百万円（同12.2%減）となりました。

#### （アジア）

アジアは、インフラの整備工事向けなど全般的に発電機の需要が堅調であったことから、売上高は38億24百万円（同10.3%増）となりました。一方、営業利益は、ベトナム工場において発電機完成品の生産を開始したことに伴う固定費の増加もあり、1億61百万円（同66.5%減）となりました。

#### （欧 州）

欧州は、景気が回復傾向にあり、発電機の出荷が増加したことから、売上高は3億43百万円（同48.0%増）、営業利益は12百万円（前年同期は7百万円の営業損失）となりました。

#### （2）財政状態の分析

##### （資産）

流動資産は、408億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ46百万円減少いたしました。これは主に、たな卸資産の増加4億42百万円や、受取手形及び売掛金の減少6億65百万円などによるものであります。

固定資産は、261億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億36百万円減少いたしました。これは主に、保有株式の評価替による投資有価証券の減少3億10百万円などによるものであります。

この結果、資産合計は、669億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億83百万円減少いたしました。

(負債)

流動負債は、123億円となり、前連結会計年度末に比べ10億96百万円減少いたしました。これは主に、短期借入金の減少2億99百万円や、未払法人税等の減少4億3百万円などによるものであります。

固定負債は、45億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億7百万円減少いたしました。これは主に、保有株式の評価替等による繰延税金負債の減少1億4百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は、168億24百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億4百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産は、501億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億20百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上20億93百万円とその他の包括利益累計額の減少5億30百万円や配当金の支払6億66百万円などによるものであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.8ポイント上昇し、72.1%となりました。

(3) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結結果計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

株式会社の支配に関する基本方針について

(1) 基本方針の内容

当社は、当社の株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えます。従って、当社の財務および事業の方針の決定を支配することが可能な数の株式を取得する買付提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様のご意思に委ねられるべきものと考えます。また、当社は、大量取得行為であっても、当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかし、株式の大量取得行為の中には、①買収の目的や買収後の経営方針等に鑑み、企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、②株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、③対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることにならないものも存在します。

当社は、このような不適切な株式の大量取得行為を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として適当ではなく、このような者による大量取得行為に対しては必要かつ相当な手段を採ることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

(2) 基本方針の実現に資する取組み

当社グループは、「野外パワーソースを通じて、常に革新に向けてチャレンジし続ける国際企業集団として、世界のNO1を目指します。」との当社グループ基本方針(ビジョン)を掲げ、国内外において、既存事業の拡充・効率化および新たな市場の開拓を目指した事業展開を行っております。

当社グループは、その主要な事業領域を、建設関連事業、産業機器事業および新規事業の3領域とし、それぞれにおいて、海外市場・新規市場の開拓に注力し、特に、建設需要に依存することとなる建設向け製品にとどまらず、非常用発電機をはじめとする非建設向け製品の開発・販売促進に努めることにより、需要創造型の経営への転換を図っております。そのため、引き続き、新技術の研究から製品の開発に至るまで、積極的な研究開発を進めております。

また、収益性の高いグループ体制を構築するべく、生産体制および国際的な原料調達の新なる効率化を進めると共に、国内・海外工場への合理化投資を行っております。

さらに、当社グループは、柔軟な組織運営を行うと同時に、各役職員の権限および責任の所在を明確化することを通じて、当社グループ全体の組織運営を活性化し、かつ、これと並行して当社グループの国際的な事業展開を支えるに足る人材の育成を進めることにより、当社グループが新規市場に事業を拡大していくための素地となる、活力ある企業風土を構築することを目指しております。

以上に加え、コーポレート・ガバナンスの取組みとして、各事業年度における取締役の責任を明確化し、経営環境の変化に迅速に対応できる機動的な経営体制を確立することを目的として、取締役の任期を1年とし、また、事業環境の変化への機動的対応等を図るべく執行役員制度を導入し、さらに、当社取締役、監査役および執行役員が出席する経営会議や当社グループ各社の社長が出席するグループ経営会議を設置しております。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成27年6月26日開催の第67回定時株主総会における株主の皆様のご承認に基づき、企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として、当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）（以下「本プラン」といいます。）を更新しております。

本プランは、当社株式の大量取得行為が行われる場合に、株主の皆様が適切な判断をするために必要・十分な情報と時間を確保すると共に、買付者等（以下に定義されます。）との協議・交渉等の機会を確保すること等により、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的としております。

本プランは、当社の株券等に対する買付若しくはこれに類似する行為またはその提案（以下「買付等」といいます。）が行われる場合に、買付等を行う者（以下「買付者等」といいます。）に対し事前に当該買付等に関する情報提供を求める等、上記の目的を実現するために必要な手続を定めております。

買付者等が本プランにおいて定められた手続に従うことなく当社株券等の買付等を行う場合、当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれがある場合等には、当社は、買付者等による権利行使は認められないとの行使条件および当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得できる旨の取得条項が付された新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）を、その時点の当社を除く全ての株主に対して新株予約権無償割当ての方法により割り当てます。

本プランに従って本新株予約権の無償割当てがなされ、その行使または当社による取得に伴って買付者等以外の株主の皆様が当社株式が交付された場合には、買付者等の有する当社株式の議決権割合は、最大3分の1まで希釈化される可能性があります。

(4) 上記の各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

上記(2)に記載した各施策は、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、基本方針の実現に資するものであります。

また、本プランは、上記(3)に記載のとおり、企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的として導入されたものであり、上記基本方針に沿うものです。特に、本プランは、株主総会において株主の皆様のご承認をいただいた上で導入されたものであること、その内容として合理的な客観的要件が設定されていること、有効期間が約3年と定められた上、株主総会または取締役会により何時でも廃止できるとされていることなどにより、その公正性、客観性が担保されており、高度の合理性を有し、企業価値・株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、3億58百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	97,811,000
計	97,811,000

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	22,859,660	22,859,660	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	22,859,660	22,859,660	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	—	22,859,660	—	1,954	—	1,754

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式)	(自己保有株式) 普通株式 609,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,224,000	222,240	—
単元未満株式	普通株式 25,860	—	—
発行済株式総数	22,859,660	—	—
総株主の議決権	—	222,240	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、株式給付信託(J-E S O P及びB B T)の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式827,100株が含まれております。

②【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
デンヨー株式会社	東京都中央区日本橋堀留町2丁目8番5号	609,800	—	609,800	2.66
計	—	609,800	—	609,800	2.66

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は609,935株であります。

2【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の変動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,676	10,757
受取手形及び売掛金	19,175	※2 18,510
有価証券	99	99
商品及び製品	5,213	5,402
仕掛品	894	1,068
原材料及び貯蔵品	3,954	4,033
その他	885	966
貸倒引当金	△43	△29
流動資産合計	40,856	40,809
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,386	7,513
機械装置及び運搬具（純額）	2,262	2,926
土地	4,862	4,850
建設仮勘定	1,079	0
その他（純額）	217	237
有形固定資産合計	15,807	15,527
無形固定資産	519	568
投資その他の資産		
投資有価証券	9,947	9,636
その他	196	405
貸倒引当金	△2	△5
投資その他の資産合計	10,141	10,036
固定資産合計	26,468	26,131
資産合計	67,324	66,941

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,206	※2 10,267
短期借入金	632	332
未払費用	720	609
未払法人税等	518	115
賞与引当金	699	379
役員賞与引当金	110	37
製品保証引当金	89	103
その他	418	455
流動負債合計	13,396	12,300
固定負債		
長期借入金	1,202	1,205
繰延税金負債	2,194	2,089
退職給付に係る負債	470	457
その他	864	771
固定負債合計	4,732	4,524
負債合計	18,128	16,824
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,954	1,954
資本剰余金	1,754	1,779
利益剰余金	39,873	41,299
自己株式	△1,359	△1,380
株主資本合計	42,223	43,653
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,034	3,813
繰延ヘッジ損益	1	△0
為替換算調整勘定	1,086	775
退職給付に係る調整累計額	△9	△6
その他の包括利益累計額合計	5,112	4,582
非支配株主持分	1,859	1,880
純資産合計	49,195	50,116
負債純資産合計	67,324	66,941

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	37,629	36,633
売上原価	28,424	27,897
売上総利益	9,205	8,736
販売費及び一般管理費	5,784	6,039
営業利益	3,421	2,696
営業外収益		
受取利息	30	16
受取配当金	118	125
受取家賃	42	67
持分法による投資利益	40	48
為替差益	52	6
助成金収入	10	112
その他	50	21
営業外収益合計	345	400
営業外費用		
支払利息	32	30
売上割引	20	16
その他	12	15
営業外費用合計	64	62
経常利益	3,702	3,034
特別利益		
固定資産売却益	0	314
投資有価証券売却益	299	—
特別利益合計	300	314
特別損失		
固定資産処分損	1	0
特別損失合計	1	0
税金等調整前四半期純利益	4,000	3,348
法人税、住民税及び事業税	1,132	871
法人税等調整額	227	161
法人税等合計	1,359	1,033
四半期純利益	2,640	2,314
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,492	2,093
非支配株主に帰属する四半期純利益	148	221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	606	△220
繰延ヘッジ損益	—	△1
為替換算調整勘定	△32	△428
退職給付に係る調整額	△3	2
持分法適用会社に対する持分相当額	1	△0
その他の包括利益合計	571	△648
四半期包括利益	3,211	1,666
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,999	1,563
非支配株主に係る四半期包括利益	212	103

## 【注記事項】

### (会計方針の変更)

#### (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

### (追加情報)

#### (従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、従業員の福利厚生サービスとして、退職した従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する「株式給付信託(J-ESOP)」を導入しております。また、平成27年9月1日より、当社取締役に対する新たな株式報酬制度「取締役株式給付制度」として、「株式給付信託(BBT)」を導入しております(以下、これらの制度に関して、信託銀行との信託契約に基づいて設定されている信託を合わせて「本信託」といいます。)

#### (1) 取引の概要

「株式給付信託(J-ESOP)」は、当社グループの従業員に勤続と成果に応じてポイントを付与し、従業員が退職した場合等に、当該退職者等に対して累積したポイント数に相当する当社株式又は当社株式の時価相当の金銭を予め設定された信託を通じて給付するものであります。

「株式給付信託(BBT)」は、当社取締役に業績達成度等に応じてポイントを付与し、所定の要件を満たした取締役に対して、毎年一定の期日に確定したポイント数に相当する当社株式を予め設定された信託を通じて給付するものであります。

#### (2) 信託に残存する自社の株式

本信託に残存する当社株式を、本信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度478百万円、792千株、当第3四半期連結会計期間551百万円、826千株であります。

#### (3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 輸出手形割引高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
輸出手形割引高	－百万円	66百万円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	－百万円	815百万円
支払手形	－	346

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）の償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
減価償却費	731百万円	937百万円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年5月22日 取締役会	普通株式	290	利益剰余金	13	平成26年3月31日	平成26年6月6日
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	268	利益剰余金	12	平成26年9月30日	平成26年12月10日

(注) 1. 平成26年5月22日取締役会決議における、「配当金の総額」には、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が、基準日現在に所有する当社株式796,100株に対する配当金10百万円を含めております。

2. 平成26年11月6日取締役会決議における、「配当金の総額」には、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が、基準日現在に所有する当社株式793,900株に対する配当金9百万円を含めております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。



II 当第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年5月21日 取締役会	普通株式	355	利益剰余金	16	平成27年3月31日	平成27年6月5日
平成27年11月9日 取締役会	普通株式	311	利益剰余金	14	平成27年9月30日	平成27年12月8日

- (注) 1. 平成27年5月21日取締役会決議における、「配当金の総額」には、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が、基準日現在に所有する当社株式792,900株に対する配当金12百万円を含めております。  
2. 平成27年11月9日取締役会決議における、「配当金の総額」には、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が、基準日現在に所有する当社株式827,100株に対する配当金11百万円を含めております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	日本	アメリカ	アジア	欧州	計		
売上高							
外部顧客への売上高	27,141	6,787	3,469	231	37,629	—	37,629
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,543	220	1,882	2	5,649	△5,649	—
計	30,684	7,008	5,351	234	43,279	△5,649	37,629
セグメント利益又はセグメント損失(△) (営業利益又は営業損失(△))	1,879	784	482	△7	3,139	282	3,421

(注) セグメント利益又はセグメント損失の調整額には、セグメント間取引に係るたな卸資産の調整額等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	日本	アメリカ	アジア	欧州	計		
売上高							
外部顧客への売上高	27,053	5,412	3,824	343	36,633	—	36,633
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,355	329	2,101	2	6,789	△6,789	—
計	31,409	5,741	5,926	346	43,423	△6,789	36,633
セグメント利益(営業利益)	1,546	688	161	12	2,409	287	2,696

(注) セグメント利益の調整額には、セグメント間取引に係るたな卸資産の調整額等が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

「1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式には、資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有する当社株式を含めております（前第3四半期連結累計期間794千株、当第3四半期連結累計期間805千株）。

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	115円82銭	97円95銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	2,492	2,093
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	2,492	2,093
普通株式の期中平均株式数 (千株)	21,516	21,372

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間終了後四半期報告書提出日までの間の配当については、<注記事項>（株主資本等関係）に記載のとおりです。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月10日

デンヨー株式会社  
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 津田良洋 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大枝和之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているデンヨー株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、デンヨー株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【会社名】	デンヨー株式会社
【英訳名】	Denyo Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古賀 繁
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋堀留町2丁目8番5号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長古賀繁は、当社の第68期第3四半期（自平成27年10月1日 至平成27年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。